



令和元年5月となりました。元号が変わり書類等への表記が平成のままにならないよう注意しています。そして昭和生まれの私にとっては、生まれた時代が2つ前の時代になるのは、ちょっと寂しいですが感慨深いことです。セピア色の昭和の風景がさらに遠くへいってしまう感じです。でも、昭和ムードのレトロな飲み屋さんには、大好きです。落ち着いて雰囲気がいいです。お酒もおいしいです。きっと、人の感性にうったえる何かがあるのだと思います。

さて、国税庁では3月に単式蒸留焼酎製造業の概況（平成29年度調査分）を発表しました。これは福岡国税局及び熊本国税局管内に住所地又は本店所在地があり、単式蒸留焼酎の製造免許を持っている企業のアンケート調査結果です。経営状況の表は次のとおりで、1者平均の売上高は10億8千万円、営業利益は7千5百万円です。前年に比べ営業利益率は8.4%から7.0%に減っています。詳しくは、次の国税庁ホームページアドレスに掲載されています。

<http://www.nta.go.jp/taxes/sake/shiori-gaikyo/shochu/h29/index.htm>

表 単式蒸留焼酎製造業の業績の推移 (単位：者、百万円)

調査年度	企業数	売上高	売上総利益	営業利益	営業利益率
H27	265	291,220 (1,099)	89,431 (337)	21,746 (82)	7.5%
H28	267	296,472 (1,110)	93,580 (350)	24,941 (93)	8.4%
H29	265	286,213 (1,080)	87,943 (332)	19,903 (75)	7.0%

(注) かつこ書きは1者平均値、計数はすべて単式蒸留焼酎製造業に係るもの

また、焼酎の輸出のデータを見ると、輸出製造者はH29で265者中の142者(53.6%)となっており、輸出量全体(2,014KL)の37.6%が中国で、以下アメリカ、タイ、ベトナム、韓国、台湾と続いています。輸出数量のさらなる増加が課題であり期待と思われれます。

話は変わりますが、毎年、協会では焼酎講演会を開催しています。東広島市の酒類総研で開催される本格焼酎・泡盛鑑評会の製造技術研究会開催日の午後には開催しています。今年は6月21日(金)です。ここでは、鑑評会の出品状況、技術的講演のほか、「わが社の焼酎造り」と題して、焼酎メーカーの焼酎造りを紹介いただいています。今年は、鹿児島で昨年10月に開催した国際酒文化・科学技術研究会の状況も紹介します。ぜひ、製造技術研究会の後にご参加下さい。

最後に、今年の冬は醸造の研究や指導等に関わってこられた方の訃報の連絡が多くありました。1月25日には上田護国先生が、2月8日に原昌道先生が逝去されました。上田先生は、鑑定官室でお酒の指導をされた後、上田流麴研究会で活躍されており、協会の杜氏セミナーの審査員・相談員も勤めていただきました。原先生は、醸造試験所で研究をされ所長を退官されてからは菊正宗酒造に入られましたが、協会の参与でもありました。また、山梨のルミエールの名誉会長の塚本俊彦氏が1月26日に亡くなられたとの連絡がありました。ワインの第1次ブームの時の昭和48年に醸造試験所の大塚先生の所にお出でになった時のことが思い出されました。さらに個人的ですが、親交のあった天野エンザイムの天野仁氏も亡くなられました。皆様の御冥福をお祈りいたします。



今年のサクラ(赤煉瓦酒造工場と)H31.3.22